

指導方針

「剣道」は野球・サッカー等スポーツと異なり、日本古来の武士道の伝統に由来する「武道」の一つです。その究極の目的は、「剣道を通じて心技体を鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する人間を形成する」（日本武道協議会制定）ことにあります。即ち、「礼節」と「感謝」を大切に剣道の修練を通じて、「お互いの人格を高めて行く道」と考えています。それを実現するために、1) 剣道に必須な基本動作 2) 基本稽古 3) 礼節と感謝の念の醸成 を柱に指導しています。

最初は、原則マンツーマン（時と場合により複数）で決まっている所作事と剣道に必要な基本動作を繰り返し指導します。そして、初心者の基本動作を一通り習得した時点で剣道着と袴を着装し、技術レベル向上と共に剣道具（面・小手・胴・垂れ）を着装して稽古することになります。

基本稽古は、錬度向上の土台となる重要な要素です。毎月指名を受けたスタッフ（高段者）が考えた指導テーマと稽古メニューで実施指導します。複数指導者の指導を受けることで剣道の幅を広げることを目指しています。

これらと同様に重要なことは、「大きな声で挨拶をし、感謝の気持ちと思いやりの心をもって人に接する」よう指導しています。子供・大人に関係なく「おはようございます」「こんにちわ」等の挨拶、或いは「ありがとうございます」の感謝の言葉をはっきりと言うことは人と接する上で必須のことです。「大きな声を出す」ことは、日常生活はもとより剣道上達にも重要な要素として指導しています。

剣道を志す人たちが「交剣知愛」（こうけんちあい）と「心常車座」（こころつねにくるまざ）の精神の元、技量向上を目指して部内者・部外者を問わず分け隔てなく歓迎され、ともに切磋琢磨し学び合える場でありたいと願っています。